

# 貧困地域に学校給食を

## 武庫川女子大とNPO協定

武庫川女子大学（西宮市池開町）は28日、世界の



貧困地域で学校給食を無償提供する活動を支援するNPO法人「国際連合世界食糧計画WFP協会」（横浜市）と連携協定を結んだ。同協会が大学と協定を結ぶのは初めてという。

同協会は、東南アジアやアフリカの貧困地域で給食協定を結んだ武庫川女子大の瀬口和義学長（中央左）と国際連合世界食糧計画WFP協会の鈴木邦夫事務局長（中央右）、ボランティア活動に参加する学生たち（西宮市池開町）

の手配、運搬を担う国連世界食糧計画（WFP）の本拠があるローマに寄付を続ける。

一方、同大のボランティア団体「ブラウンライスボランティア」は、学生食堂で玄米を使ったメニューを考案し、売り上げの10%を同協会に寄付。2012年から約480万円を贈ってきた。

締結式は同大の瀬口和義学長（1）と同協会の鈴木邦夫事務局長（60）が出席した。連携協定を機に、同協会の広報活動やイベントで学生がよりボランティア活動の幅を広げていくという。ブラウンライスボランティア

の委員長の務める同大3年の大西陽香さん（20）は「誰もが学校で給食が食べられるように一層活動に力を入れていきたい」と話していた。（小谷千穂）